社会科・地理歴史科教育法Ⅰ　　上野昌之

授業概要

中等教育における社会科・地歴科の内容、課題を理解し、教員としての基礎的教育能力を養い、資質を高めることを目的とする。教科の目的・内容の変遷を概観するとともに、学習指導要領に示された各科目の目標と内容、課題を講義する。さらにⅠでは、実践的な学習として、地域調査の手法を学びプレゼンテーションを行なう。受講者の討議を加えながら相互に資質の向上を図る。また、社会科・地歴科教員としての基礎的能力を高めるための課題を適宜課す。

授業計画

第１回	ガイダンス：社会科・地歴科教育法を学ぶにあたり
第２回	戦前の地歴教育①：社会科教育の変遷
第３回	戦前の地歴教育②：教育の基本的あり方と社会科
第４回	戦後の社会・地歴教育①：新国家の誕生と社会科教育
第５回	戦後の社会・地歴教育②：学習指導要領の変遷（前半）と社会科教育
第６回	戦後の社会・地歴教育③：学習指導要領の変遷（後半）と社会科・地歴科教育
第７回	中等社会科カリキュラムの内容と構造
第８回	高校地歴科カリキュラムの内容と構造①：歴史
第９回	高校地歴科カリキュラムの内容と構造②：地理
第10回	地域調査研究①：地域研究の方法
第11回	地域調査研究②：地域研究の具体的事例
第12回	地域調査研究発表①：個別発表と質疑応答
第13回	地域調査研究発表②：個別発表と質疑応答
第14回	地域調査研究発表③：個別発表と質疑応答
第15回	社会科・地歴科の教育指導方法
第16回	筆記試験

到達目標

この講義では中等学校の社会科･地歴科の教員になるための基礎作りを学んでもらいたい。まず現在の社会･地歴科の成り立ち、現行カリキュラムの特質を学んでもらう。次に、各回を通して教員として相応しい知識、見識とは何かを自己課題として持ってもらう。そして、授業組立ての前段階として、自己が調査したものをいかにまとめ表現するかを考えてもらう。

履修上の注意

将来教職に就く意志を持ち、教員としての資質を高める意欲のあることを強く望む。講義へは積極的に参加してもらいたい。教員としての資質を考えると、講義への出席が不規則であったり、遅刻が多かったりする者、講義中に私語・私事が多い者は、評定を厳しく扱う。また、研究発表は単位修得に必須のこととする。

予習復習

前半は毎回小テストまたは課題レポートを課す。事前に示された範囲及び課題に対し十分な準備学習、調査考察を行うように。また、後半は地域を調査・報告する形式の講義を行う。各人が実際に地域をめぐり調査し、独自の視点から報告ができるように取り組むこと。

評価方法

試験(50%)、作業課題(40%)、講義参加意欲(10%)などとし総合的に評価する。
試験を受けることができるのは出席時間数が全講義の 2/3 以上のものとする。

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領解説　地理歴史編』
文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会編』
その他、必要に応じ適宜資料を配付する。